

## 令和4年度第16回市政懇談会 会議録（要旨）

テーマ：地域が抱える問題について

<b>【日 時】</b> 令和4年10月25日（火） 18時20分 ～ 19時30分
<b>【場 所】</b> 川上ふれあいセンター
<b>【出席者】</b> ○篠崎市長 川上地区社会福祉協議会会長 : 三輪 篤生 川上地区体育振興会会長 : 藤野 靖志 川上地区社コミュニティ推進協議会副会長 : 林 茂也 川上地区文化振興会事務局 : 中村 恭子 川上地区婦人部連絡協議会会長 : 中野 優美 ○総合政策部 ○事務局（広報広聴課、川上ふれあいセンター、地域支援員）
<b>【概 要】</b> 1 開会 2 出席者自己紹介 3 参加者と市長との意見交換 4 閉会
<b>【意見交換・懇談】</b>
<b>○活かに満ちた強い産業のまちについて</b> <b>【社会福祉協議会会長】</b> ・山口宇部空港が首都圏からの時間的距離が近いので、市内の空きスペースにテレワークの拠点としてIT企業等を誘致することをアピールしてはどうか。 ・県産業技術センターやJAXA等の優れた施設があるが、活用されていない。 ・宇部市は山口県内では比較的人口が多いが、イベントは少ない。JAXAを活用したイベントを企画してみてはどうか。JAXAが宇部にあることをPRすることも必要だと思う。 <b>【市長】</b> ・コロナもあり若い世代の地方移住への関心が高まってきているが、経済合理性を考えて行動する傾向にある。現在はテレワークが増えてきておりチャンスととらえている。 ・中心市街地から空港まで5分という立地を活かし、空き物件の活用も進めたい。 ・ドローンなどの実験は東京では難しいが、地方ではできる。宇部市は東京から時間的距離が近いのでチャンスである。 ・次世代型の成長産業、既存の産業のDX化等が必要である。県とも連携して取り組んでいく。 ・宇部市にはJAXA、産業技術センター、山口大学医学部・工学部があり、宇部市なら

ではの研究シーズである。それが将来の宇部市の稼ぐ力となる。

- ・ JAXA 関連では、山口大学でベンチャー企業が立ち上がった。そこでは衛星データを使い、農林水産業（漁業や竹被害）やインフラ（道路や橋）の分析に活用している。
- ・ 医療関係産業では山口大学に再生医療の第一人者もおられ、そういった方のシーズをベンチャー化することを金融機関やベンチャーキャピタルと連携し取り組んでいる。
- ・ 「ときわ公園チャレンジ」ではトヨタ・コニックの次世代型モビリティの実証実験を行った。例えば、地域の方が北迫団地の坂道で自宅からバスの停留所までの移動に使うなどの活用が考えられる。
- ・ AI を搭載したドローンの実証実験もあったが、その企業は宇部市への進出協定を結ぶことができ、宇部高専の人材が 2 名雇用された。今までは新しい産業が宇部市内に少なかったが、新しい産業が増えると宇部高専や山口大学の工学部の生徒が、在学中からその企業に携わり、働くことができる。
- ・ イベント関係では、宇部市には渡邊翁記念会館があるが、大きなコンサートはできないもののクラシック音楽では権威のある建物なので、それを活かしていきたい。

## ○中央分離帯等の雑草の繁茂について

### 【体育振興会会長】

- ・ 市道や県道の中央分離帯、車道と歩道の境の植え込みの雑草が茂っている。車道走行中の自転車は雑草を避ける為、後方確認もなしに中央車線側に寄って来ることもある。視界を妨げる前に除草するか、防草シートを敷設することをお願いしたい。

### 【市長】

- ・ 防草シートについては、経年劣化や防草シートの上に土砂が堆積することにより、思ったよりも効果が得られない。
- ・ うべみちサポート制度では、市道の一部を維持管理していただける地域団体と委託契約をしている。川上地区は対象路線が 6 路線有り、現在 2 路線について委託契約をしている。
- ・ 市や県の維持管理には限界があり、共創という観点からも地域と協力して維持管理をしていきたい。ただ、危険性が高い箇所はすぐに市で対応するので教えてほしい。

## ○通学路の防犯対策について

### 【コミュニティ推進協議会副会長】

- ・ 地区内には夜間真っ暗なところも多く、そこを高校生が自転車で通学している。防犯対策として街灯の充実をお願いしたい。

### 【市長】

- ・ 防犯灯は地域に設置をお願いしているが、防犯灯設置を新設、又は器具の取替をした場合、10 万円を上限に設置費用の 2 分の 1 を助成している。また、小中学校の通学路に自治会が LED 灯を新設する場合、10 万円を上限に、設置費用の 3 分の 2 の助成をしている。

- ・場所によっては市の道路整備課が設置する街灯もあるので、館長や地域支援員を通して教えてほしい。

## ○病児保育について

### 【文化振興会事務局】

- ・共働き世帯が多くなっているので、病児保育を上手く活用できるようになるとよい。

### 【市長】

- ・病児保育については、県と連携し病児保育の空き状況を確認できるアプリ導入を検討したい。宇部市は病児保育の数が6か所あり、山口県の中で一番多い。

## ○給食費について

### 【文化振興会事務局】

- ・給食費を無料にしてほしい。

### 【市長】

- ・給食費は、現在、保護者の負担は食材費のみであり、人件費、施設費、設備費、備品、消耗品費、光熱水費は市で負担しており、経済的負担が困難な世帯については全額公費で負担している。給食費は無償化したいが、新たに約6億4千万円が必要となる現実がある。

## ○ヤングケアラー、子どもの貧困について

### 【文化振興会事務局】

- ・ヤングケアラーの子どもたちは自分がその立場にいることが恥ずかしくて言い出せない子どもも多い。ヤングケアラーを周知できる活動ができるとよい。

### 【市長】

- ・ヤングケアラーについて、昨年から調査をしているが、家庭内でのことなので、ヤングケアラーを見つけることが難しい。現在、県が全数調査を行っているので、このデータを元に対策を充実させていきたい。
- ・宇部市では、子どもの貧困、貧困の連鎖の問題に注視している。貧困の原因の一つとして、養育費の取り決めができていないことがあるが、現在、離婚時に養育費の取り決めをしている家庭は3割しかない。法務省と連携し、養育費の取り決めを結ぶように弁護士や司法書士の紹介などの支援をしていく。
- ・今年度から、市と民間や地域の支援団体による貧困対策ネットワークを構築しているところである。
- ・子ども食堂の支援については、行政が食材費を出すことには、不公平感があり難しい面がある。下関、周南、防府の社協で支援をしているが、研修費や広報費などを補助している。市でも必要な助成を展開していきたい。

## ○地域活動の若返りについて

### 【婦人部連絡協議会会長】

- ・地域活動に興味がない若い人が多く、また入ってきにくい状況にある。川上地区はPTA活動が停滞し、若い人が地域活動に入ってくるきっかけがない。
- ・他地区の状況や団体の若返りについての考え方を聞きたい。

### 【市長】

- ・学校の協力でアンケートを実施した際、回答率は9割を超えたので、若い人を巻き込むには学校の協力が有効である。
- ・他地区では学校と地域の運動会を一緒に行っているところもある。各地区の取り組みを紹介、共有できるプラットフォームを作っているのを活用してほしい。
- ・地域の役職が多すぎるところは、地域の役職の棚卸が必要であると考えている。
- ・団体の若返りについては、地域の役員に定年制を設けている地区もある。多様性のある意見を取り込むため、男女の比率や年代を定めるなどのやり方もあるかと思う。より良い地域活動とするためにルールを定め、話し合っていく必要がある。

## ○交通安全教育の取り組みについて

### 【体育振興会会長】

- ・中高生は運転免許証を持っていないこともあり、自転車の運転時に交通ルールが守られていない。小学生の段階から学校の教育の一環として交通安全教育を充実させることで、徐々に中高生の交通ルールの向上にも波及していくのではないかと。

### 【市長】

- ・交通安全教室は警察と連携し実施していく。

## ○地域ブランドの確立について

### 【コミュニティ推進協議会副会長】

- ・「まちじゅうエヴァンゲリオン」があったが、「まちじゅう」と言うほどには感じられなかった。もっと力を入れ、アニメの分野で地域ブランドを確立してほしい。

### 【市長】

- ・今後も庵野秀明さんの出身地として、制作会社と連携し、市民の皆様にも理解してもらえるような取組を進めたい。